

京都への道

M1J SUE

2008年10月

1 はじめに

大学というものは学生に対し非常に大きな影響を与える場である。特に同期の友人やサークルの先輩後輩などの付き合いは、後の人生や考え方に多大なる影響を与えることだろう。私も、バカをすることにかけてはテロリスト並の行動力を持った先輩や、旅好きで時には酷道で運転する先輩などに感化され、他とは違う一風変わった旅を試してみたいと思うようになっていった。そして、合宿の行われる湘南の浜見寮までいかにして到達するかという競技に参加し、東京近郊区間大回り、岐阜経由ルートの計画をするまでになった。

時は2008年。大学院に進学した私には、先輩はもちろん同期にもOBができ、当然彼らとはなかなか会えなくなってしまった¹。就職先が東京の場合はまだそれなりに会うこともあるのだが、首都圏でない場合はなかなか難しい。そこで今年の夏、私と同じく大学院に進学した友人の帰省に寄生し、途中京都に就職した友人に会って飲み会、その後北陸へ一人旅をするという計画を立案、実行した。本文はそんな旅の1日目、東京から京都までの移動、京都での飲み会の様子を記したものである。

2 概要

今回の計画は、早朝に同行者のI氏とともに東京を出発し、ひたすら東海道本線の普通列車で西へ向かう。そして、京都でOBと飲み会をし、I氏の実家のある兵庫県北部に終電で向かい泊めてもらう、という感じである。飲み会の参加者はS氏(OB、京都)、I氏(M1)、私(M1)、Z氏(OB、名古屋)、C氏(OB、京都)、O氏(D3)の6人²。Z氏とは道中の名古屋で合流、O氏は九州での学会の帰りに直接来るため京都にて落ち合う。切符はJRの普通列車乗り放題の「青春18きっぷ」を使用し、私はそのまま北陸へ鉄道旅行しながら東京へ帰る、という寸法になっている。京都までの500km以上にわたる行程を普通列車で乗り通すというクレイジーな移動にI氏がついていけるかは微妙に心配だが、休憩時間もそこそこあるしなんとかなるだろうと高をくくった。かくして長い1日の始まりである。

3 京都への旅

3.1 出発

自宅 調布 6:20 京王線 2002 快速 新宿行
調布 6:33 新宿 6:55 京王線 2004 快速 新宿行
新宿 7:00 東京 7:13 中央線 654T 中央特快 東京行

8月10日(日)、午前5時起床。というか起きてた。普段から日の出と共に寝るような生活を送っているやつがちゃんと眠れる訳がない。適当に身支度を済ませ、3日分の着替えを持って出発した。朝マックでも食べよ

¹まあチャットでよく見かけるけど。

²若い順。

うとかとちょっと早めに家を出たが臨時休業中……。幸先悪い。最寄駅にやたらと早く着く。暇なので1本早い電車に乗って合流地点の調布へ向かうことにした。

仮設橋上駅舎になるのももうすぐかなあとか思いつつI氏と合流。やはりあまり寝ていないようだ。朝っぱらから座れない程度に人が乗っている。お盆だというのに出勤風の人も。まったくと無駄話をしつつ新宿到着。乗り換え時間が短いので小走りで移動。何度も乗った新鮮味のない中央線で東京に向かう。

3.2 いざ東海道へ

東京 7:24 熱海 9:20 東海道線 521M 普通 伊東行

朝飯を食べ損なったので、ホームの売店で助六寿司を買い東海道線に乗りこむ。いよいよ本格的な旅の始まりだ。この列車は特急用の車両を使っているが普通列車として乗れるお得な列車だ。まあ特急としてはシート幅が狭くて今ひとつな気がするが、普通としては十分快適だ。

出発するとI氏がノートを取り出す。普段から気になったことをメモしているようだ。私も何度か見たことがあるが、結構カオスである。後日このノートの内容から次のような会話を思い出した。

- emergency ladder(避難ばしご)ってなんかはしごから火が噴射して飛んでいきそうな感じだよ³
- 「ちたつと」 さて、なんと読むでしょうか？ (答：茅ヶ崎)
- AISLE(通路側)って読みにくいよね

どこまでもとりとめのない会話である。

横浜あたりから立ち客が多くなる。特急の車両で立つのは通勤電車以上に大変だ。荷物の多い我々があんなっていたらと思うとぞっとする。そんな車内も平塚を過ぎれば落ち着き、小田原からの見ごたえある景色を拝みつつ熱海にたどり着く。

3.3 静岡横断

熱海 9:37 興津 10:35 東海道線 431M 普通 島田行

興津 10:42 浜松 12:13 東海道線 763M 普通 浜松行

浜松 12:28 豊橋 13:01 東海道線 947M 普通 豊橋行

ここから先はJR東海区間となる。酷いときには15両から3両に乗客が圧縮される素敵な場所であるが、今回は幸いにも5両編成が来た。新幹線のおかげでほとんど特急が通らなくなったが、さすがに天下の東海道本線だけあって乗客が多い。途中ででかい工場は何度も見たが富士山は見れなかった。残念。

興津で始発列車に乗り換える。興津とか読み方もよく分からないようなマイナーな場所だが、始発が多いためここで乗り換える。ロングシートなので景色が見づらいが、やることもないのでボーっと外を見ながら過ごす。浜松に着くころにはさすがに腹が減った。ここはやはりうなぎを食べようと思ったが、この先の豊橋でも売っているようなので我慢した。

3.4 トラブル発生

豊橋で弁当を買う。うなぎ弁当はあいにく売り切れ。ついてない。仕方なく幕の内我慢する。これで滋賀県まで一気に進めるぞと思い電車に乗り込むとI氏が一言。

「あれ、携帯がない。」

……まじすか。どうやらどこかの電車内で落としたらしい。発車1分前だったため大急ぎで荷物をまとめホームに出る。駅員に忘れ物の手配をしてもらうが、そのときのこんな会話が印象的だった。

「どこから乗ってきましたか？」「えーと……東京から」「ああ、お疲れ様です(笑)」
ですよねー。

³本当は emergency だけど、I氏のノートにはそう書いてあった。ていうか私も気づかなかった……

3.5 愛知を貫く

豊橋 14:07 名古屋 14:57 米原 16:11 東海道線 5511F 快速 米原行

予定より 30 分遅れで出発する。暑かったせいもありやっと飯にありつけほっと一息。ふと隣を見ると似たような普通列車旅の 4 人組が。そして手元にはうなぎ弁当……妙に腹が立つ。

豊橋からは特急のような進行方向を向いたシートに座れるため快適だ。平日は途中の大垣から短いローカル線のような電車に乗り換える必要があるが、日曜の今日はそこも一気に抜けることができる。発車すると他の参加者たちに到着時刻の変更を伝える。I 氏には悪いが、こういう予定外のトラブルやそれに対する後始末をするのはちょっとワクワクする。いつもそれなりにちゃんと予定を立てているが、それをぶち壊すハプニングは旅の醍醐味だと勝手に思っている。

名古屋で Z 氏と合流。Z 氏もかなりの旅好きで、普通列車の旅でも私の先輩格である。今回の計画にもノリノリで参加してくれた。混んでいたためなかなか落ち着いて話せなかったが、岐阜を過ぎるころからすいてきた。しかし、今度は寝不足と疲れから一気に睡魔が襲う……。大垣はなんとなく覚えているが、いつの間にか関ヶ原を越えて米原に着いた。

3.6 京都到着

米原 16:19 京都 17:12 東海道線 3281M 新快速 播州赤穂行

ここからは JR 西日本である。関西ご自慢の新快速に乗って一気に京都まで突っ走る。スピードでは関東と比べるべくもないが、やたらと揺れるのはちょっとつらかった。翌日も乗ったが、座れなかったときのダメージもでかい。私は相変わらず睡眠モードで、2 人が話している横でうたた寝をしていた。

日も傾いてきた頃、ようやく京都に到着。目的地に着いたという達成感ですがすがしい⁴。京都組の C 氏とも合流。相変わらずわが部には珍しい体育会系だ。I 氏が自宅に連絡先として私の携帯の番号を教え、FF7 っぽいと噂の京都駅の大階段をのぼる。私は FF7 をよく知らないが、馬鹿でかくてなかなか見ごたえがある。一番上までいくと設計者による説明が書いてあったが、英語を翻訳エンジンにかけたかのようななんとも読みにくい日本語だった。

新幹線でやってきた O 氏と合流する。学会の帰りに西から合流するとは相変わらずの愉快犯である。同期の S 氏にも連絡をしていたが、他の用事のため行けるか分からないとのことだったので先に飲み会を始めることにする。

4 京都での集会

4.1 1 次会

駅近くのちょっといい居酒屋で飲み会開始。いつも行くような安い大衆居酒屋チェーンよりもランクが高い。料理もうまかったが、酒に関してはよく分からない。私はあまり飲めないのでビール半分とサワーぐらいしか飲まなかった。こういうとき飲めないのはいつも損な気分になるが、何度か軽く倒れたこともあるので自重している。

久しぶりに会ったということもあり話が弾む。それぞれの就職先での話はこれから就職活動をする私にとってためになる。もっとも、我々の京都までの話やゲームの話など、大体は以前と同じようなことを話していたような気もする。あまりハメをはずして暴走するような人たちではないので、かなり落ち着いた飲み会であった。

会計するときに領収書を発行してもらった。なんでまたそんなものかと思ったら、こんな宛名の領収書が出てきた (図 1)。

⁴まあ、今まで寝てただけども。

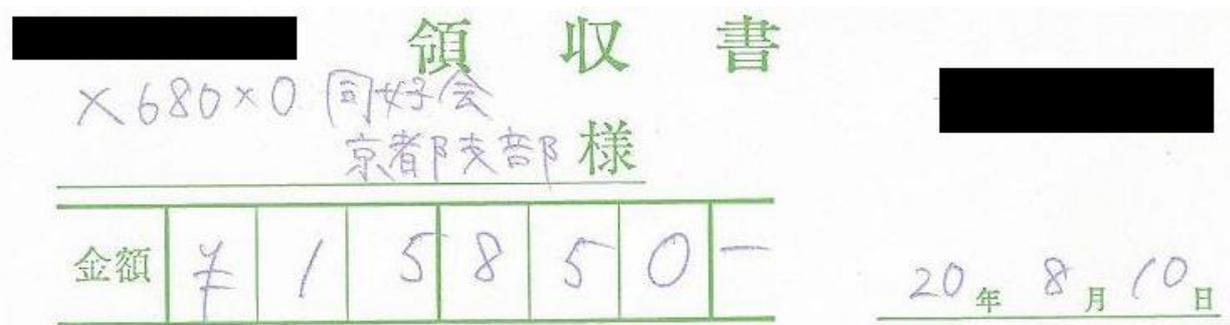


図 1: 領収書 (一部加工)

どうやらこの会合は我が部の京都支部という団体の集会だったらしい。過去某スキー場に「X680x0 同好会 山岳支部」という一団が出現したが⁵、どうやら他にも様々な支部があるようだ。それにしても、どんな宛名でも領収書って切ってくれるものなのね。

4.2 2次会

店から出た一行は再び駅に向かう。I 氏の帰りの切符を買ったり、京都支部の集いの記念撮影をしたりした後、駅 2 階のオープンカフェでまったりする。夜になっても 30 はあろうかという暑さだ。とその時、遅れていた S 氏が到着。仕事が忙しそうだが元気なようだ。終電の早い I 氏と Z 氏が帰る 5 分ほど前ということもあり感動の再開といった感じが。短い再開を惜しみつつ、2 人は帰路に着くのであった。

5 その後

この後、4 人は京都の S 氏宅に泊めてもらうことになる。ん？何か最初と話が違うじゃないかって？そう、本来私は I 氏の実家に行く予定だったのだが、どうやら先方の都合が悪くなったらしく予定を変更したのだ。まったく、最後まで計画通りに進まなかったが、私はやはりこういうトラブルをいちいち楽しんでいるのであった。

翌日、私は 3 日に渡って北陸地方を旅して回った。今脚光を浴びている福井県小浜市 (大統領選的な意味で) などを訪れながら、東京に戻った。

6 おわりに

とまあ、いろいろあったが結果的には目的を果たすことができた。旅をして友人や先輩に会いに行くというのもいいものである。機会があればまた行ってみたい。ちなみに、S 氏が遅れた理由としては他の集まりがあったらしく、その場にこのサークルの OB である 3 氏⁶がいたというから驚きである。翌日仕事のために新幹線で東京に帰ってしまったとのことだが、もし偶然に会っていたりしたらとんでもないネタになるところであった。

なにやら鉄分満載な何が主題なのかよく分からない文章となってしまったが、旅の楽しさや仲間との再会の良さが分かっていただければ幸いである。みなさんも昔の仲間と会いに行って、一緒に酒でも飲んでみてはいかがだろうか。

⁵宿の食堂のテーブルにそう書いてあった。

⁶3 人という意味ではなく、特定の人物を指す。